

北信濃里山通信 vol.24

2016年4月15日発行

巻頭言 「幻の逸品『ブナの実羊羹』が発売されました！」

信州大学教育学部 准教授
北信濃の里山を保全活用する会会長 井田秀行

みなさんにもご協力いただき、信州いいやま観光局や信州大学とも力を合わせ、豊作の年しか採れない貴重なブナの実と地元飯山産の小豆でつくった「ブナの実羊羹」がようやく商品化されました。

ブナの実の採取や加工に手間を要し、ツキノワグマ等の野生動物の重要な食物資源でもあります。

そこで「ブナの実羊羹」は、あえて3～7年に一度訪れる豊作年のみ、数量限定で生産することにしました。

羊羹は、まるごと5粒を入れたブナの実の食感と風味を十分に味わえるようスティック状にしています。ブナの実の特性や魅力を発信するしおりのついたパッケージも含め、全てが手作りです。

北陸新幹線飯山駅開業1周年を記念した3月13日から発売され、飯山市内の高橋まゆみ人形館、道の駅、森の家、湯滝温泉で販売中です。東京の「銀座NAGANO」でも売り出されています。販売は好調で、遠方からの電話注文もあるそうです。

甘くて香ばしいブナの実はコクがあり栄養も豊富。プリットはじける食感もたまりません（私の感想）。

自然の恵みと地域のたくさんの人の思いの詰まった雪国飯山の誇る逸品をお見逃しなく。

※ 右の写真が発売中の商品。昨年の総会で出された試作品からスティック状に変更、パッケージなどに改良を加え、真ん中の部分で切り離し、片手で気軽に食べられます。

※ 価格は1個540円（税込）。商品のお問い合わせは、「信州いいやま観光局（TEL：0269-67-0139）」まで。



お知らせ

・オオルリシジミ生息域外保全の放蝶作業

飯山産オオルリシジミの生息域外保全として、試行的に戸狩地区で蛹を放飼する作業を行います。放蝶は本年で4年目となりますが、作業は例年どおり赤玉土と蛹が入った小型植木鉢を土中へ埋め込み、看板の設置です。

放蝶頭数は60頭で、昨年以前に放蝶したものからの自然発生もうかがえましたが、本年も引き続き発生量調査を行い、定着効果を検討します。羽化は5月下旬から始まると思われませんが、5月以降観察を随時行います。

作業終了後は周辺に生息するギフチョウの調査、観察を併せて行いたいと思いますので、関心のある方は参加ください。

また、午後も引き続き、「昨年採取したカヤの運び出し」又は「生息地の整備作業」を行う予定です。

【日時】平成28年4月24日(日) 午前9:00～

【集合場所】飯山市戸狩スキー場 星降るレストラン前(飯山市大字豊田6356-2)

その後、放飼場所へ移動して作業を行います(1～2時間程度)。

参加申し込みは不要です。作業ができる服装でお越しください。

雨天決行です(雨具持参)。

午後の作業は13時に飯山市公民館駐車場に集合とします。

オオルリシジミ生息地環境整備

オオルリシジミ発生前の生息地環境整備として、注意看板の設置、ロープによる保護区設営、観察会前の遊歩道の草の刈り払い作業を行いますので、参加をお願いします。

【日時】5月21日(土)及び5月22日(日)

午前9:00～15:00頃(終わりの時間は参加人員・作業の進行によります・・・)

※雨天の場合、翌日の5月29日(日)に順延しますが、実施不明な場合は前日の夕方、当会事務局(飯山市教育委員会)TEL:0269-62-3342へ問い合わせください。

【集合場所】飯山市公民館駐車場としますが、直接生息地に向かわれても結構です。

作業のできる服装でお越しください。

・「第5回・オオルリシジミ親子観察会」の開催

本年は放蝶地と現生息地で「オオルリシジミ親子観察会」を行います。

【日時・場所】5月28日(土)午前8:00～12:00 飯山市戸狩地区の放蝶地

6月5日(日)午前8:30～12:00 飯山市内の生息地

【集合場所】飯山市公民館(飯山市飯山1436-1)

【日程など】5月28日は8:00から受付、8:30にバスで開会場所(戸狩スキー場望の湯駐車場)に移動、9:00に開会し、徒歩で観察場所に向かいます。直接、開会場所に集合されても結構です。

6月5日は8:30から受付、9:00開会。9:20頃にバスで生息地へ移動します。

参加者にはオオルリシジミの観察とモニタリング調査(目視数をカウント)を実施していただきます。

【申込み】いずれかの参加希望日を、飯山市教育委員会学習支援課(当会事務局・TEL:0269-62-3342)へ5月20日までに伝えてください。

【その他】山歩きに適した服装でお越しください。小雨決行です。中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。

オオルリシジミ生息地でやっかいな 外来雑草・・・ワルナスビ（悪茄子）

前号でも触れました「ワルナスビ」。
会員の花崎秀紀さんからの御寄稿です。



昨年 11 月、飯山オオルリシジミ生息地の最上部でも、ワルナスビがかなり生えていました。すでに 1.5cm ほどの球形の実が黄色に色づき、引き抜こうとするとパラパラ落ちてしまい、駆除するのは厄介です。そのまま放置すると一気に拡大し、オオルリシジミにも影響する恐れもあります。手持ちの本や文献から、特徴と退治法、命名のエピソードなどを集めてみました。

オオルリシジミ保護の報道を担っている信濃毎日新聞編集委員の増田今雄さんが出版された本「増える変わる生態系の行方」によれば、ワルナスビはナス科の多年草。県内の植物研究者によると「伊那地方では 10 年ほど前から見かけるようになり、ここ数年で急激に拡大した」という。下伊那郡喬木村、松本市、長野市、飯山市で確認しているとのこと。

「しなの帰化植物図鑑」（土田勝義・横内文人著）をみると、白花の写真は 1992 年 8 月 11 日に穂高町（当時）で撮影され、塩尻市で群咲く紫色の花には 1997 年 8 月 31 日の写真説明がある。20 年以上前に植物に詳しい専門家たちは気づいていたようだ。

花は、名前のとおりナスそっくり。うす紫色と白色がある。特徴として「花はきれいだが茎や葉はかたく、鋭いとげがあり、家畜は食べない。機械などで切断するとそこから発芽、増殖する」。国立環境研究所によると北アメリカ原産の野草で、日本では明治時代にもちこまれ、1943 年に記載がある。場所は千葉の牧場。「意図的ではなく持ち込まれた」ようだ。ワルナスビの特徴を「種子繁殖、地下茎による栄養繁殖を行う。地下茎の切断による繁殖力が強く、1cm 以下の断片による繁殖力が強く、断片からの再生可能」と説明。駆除の難しさを指摘している。茎ごと地中にすき込むなどは逆効果。地中に実を埋めると翌年は一面ワルナスビ畑が出現する。何より、種の混じった発生地を土を移動させてはいけない。

増田さんの著書には、専門家の助言をもとに駆除法も示されている。「1 年間しっかりと根まで枯死させる除草剤で処理すれば、翌年以降の発生は大幅に減る」。市販の除草剤だが、全く問題がないわけではないようだ。除草剤の主成分はグリサホートイソプロピルアミン塩。世界的には環境や人体への影響から使用禁止を求める声もあるといい、慎重に扱うべきかもしれない。

ワルナスビの命名者を調べてみた。名付け親は著名な牧野富太郎博士。和名がなかった明治時代、名前をつけて、友人知人にこの珍名「悪茄子」を教えて笑わせていたという。

顛末記はこうだ。牧野富太郎著「植物一日一題」を引用すると…

「下総の印旛沼に三里塚というところがある。私は今からおよそ十数年ほど前に植物採集のために、知人達と一緒にそこへ行ったことがある。ここは広い牧場で外国から来たいろいろな草が生えていた。そのとき同地の畑や荒地にこのワルナスビが繁殖していた。私は見逃さずこの草を珍しいと思って、その生根を採って来て、現住所東京豊島郡大泉村（今は東京都練馬区東大泉町となっている）の我が圃中に植えた。さあ事だ。それは見かけによらず悪草で、それからというもの、年を逐うてその強力な地下茎が土中深く四方に蔓こり始末に負えないので、その後はこの草位に愛想を尽かして根絶させようとしてその地下茎を引き除いても、引き除いても切れて残り、それからまた盛んに芽出って来て今日でもまだ取りきれなく、隣の農家の畑へも侵入するという有様。イヤハヤ困ったもんである」。

牧野富太郎は、よほどこの悪草に手を焼いたものらしく、罵詈雑言を投げかけている。「こんな草を負い込んだら災難だ」。実についても「あまり冴えない柑黄色を呈してすこぶる下品」と形容し、「この始末の悪い草、何にも利用のない害草」に「悪るナスビとは打ってつけた佳名である」と胸を張る。そして、最後には恐ろしげな俗名を書きくわえた。ソドムのリンゴ「Apple-of-Sodom」と。

活動報告など

・「定期総会」と「いいやま野鳥観察会」

3月5日（日）に飯山市文化交流館「なちゅら」多目的ルームで本年度の定期総会を開催しました。会場の「なちゅら」は新幹線開業に合わせ飯山駅近くに建設されて今年の1月に開館、県産のカラマツやヒノキを使った新築の施設の中で総会が行われました。ここは飯山市の文化振興の拠点として期待されているようで、今後、当会でも活用できればというところです。

さて、総会では本年の事業計画が承認され、昨年引き続きオオルリシジミの保護活動を始め里山保全活用を進めていくこととなりました。当会の事業で、子供たちにオオルリシジミや北信濃の自然をもっとよく知ってもらおうと小学校との交流、出前授業などを積極的に行ってみてはどうかとの意見が出され、事務局で検討したいと思います。また、環境保全推進のため民間の団体や県で構成される「豊かな環境づくり北信地域会議」への当会の入会が承認され、そこから本年のオオルリシジミ保全活動に対して助成を受ける予定でいます。本年の予算はこの助成の他、カヤの販売などの収入が見込め、活動の幅を広げることができそうですので、引き続き、御意見や御協力をお願いします。

総会の後、当日の午後からは「いいやま野鳥観察会」を開催しました。今年は春の訪れが早く、当初予定していた千曲川河川敷は冬鳥が渡りを始めて少なくなってしまったため、観察場所を城山公園に変更して実施。講師として、野鳥に詳しい当会の会員でもある丸山和麻さんに案内と解説をしていただきました。

城山公園は市街地に近くにありますが、林に囲まれ冬場、山から下りてきた鳥たちのすみかにもなっているようです。

講師の丸山さんも小学生の頃、学校の先生に連れられ野鳥の観察を行った思い出の場所だとか・・・。

公園内を一周、歩き回り、鳴き声を聞き、望遠鏡を覗きながら実物を確認。身近な場所でも結構な種類の鳥たちがいることがわかりました。この日に確認された鳥は、カワラヒワ、シジュウカラ、カシラダカ、エナガ、アオゲラ、ノスリ、シロハラ、キジバト、ホオジロ、シメなど約20種。丸山さんのリストでは飯山市で確認されている鳥類は渡り鳥を含め、39科139種類とのことで、今後は時期や場所を変え記録を続けたいところです。これからの季節、特に5月から初夏にかけては鳥たちも繁殖期を迎え、観察にも好適なようです。オオルリシジミの生息地のような里山・草原環境もどのような野鳥がいるのか興味深いところで、また、探鳥会などを企画したいと考えています。



野鳥の観察風景



編集後記

今年は例年にない少雪で早い春。オオルリシジミの発生も早いと思われ作業や観察会も時期を早めました。新年度になり、地域おこし協力隊の矢内さんは任期を終えられ、当会事務局で市教育委員会の青木さんは人事異動で転勤。お世話になりました。青木さんの後任は新人の小澤くん。よろしくをお願いします。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1436-1
飯山市公民館内
TEL：0269-62-3342 FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp
年会費：1,000円（郵便振替：00540-8-101643）
編集者・事務局長：福本匡志